

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300489
法人名	特定非営利活動法人 菜々の会
事業所名	グループホーム めぐみ
所在地	佐賀県鳥栖市儀徳町2907番他 (電 話) 0942-48-1033

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年9月29日	評価確定日	平成 21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.6

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月17日現在)

利用者人数	9	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	2	名	要介護2	3	名	
要介護3	2	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	82 歳	最低	64 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀医院、 聖マリア病院、 古賀俊哉歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの住宅地の中に位置し、広い敷地内に協力医療機関と隣接した落ち着いた雰囲気ของกลุ่มホームである。「一人ひとりの命を尊いものとしてうけとめ、真心こめてもてなします。」「支えあい、生かし合う人間本来の姿に生きる事が出来るように支援します。」「日々の出会いと関わりを心から、喜び感謝します。」という理念のもとに、その人らしい暮らしの実現を目指されている。『大切なことは、どれだけのことを成し遂げたかではなく、それぞれの行いにどれだけの心をこめていたかです。』という、マザーテレサの言葉も理念とともにとても大事にされ、日々の介護の中で実践されるよう努力されている。また、看護師、栄養士、介護福祉士といった専門職が、それぞれの専門分野を日常の業務の中に活かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後、早速運営推進会議や避難訓練を実施するなど、評価を活かし改善に向けて前向きに取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	その意義を理解し、管理者を中心に職員全体で取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度運営推進会議が開催されている。園行事の報告や避難訓練への協力を呼びかけたり、各方面からの意見も聴取され、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に会話の中で、意見、要望、苦情等を積極的に聴取するように努められている。ホーム内の苦情窓口の他、外部の苦情申し立て機関の説明も行われている。家族への報告については、情報の均一化という意味でも、定期的なホーム便り等の文書での報告も行うことが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	系列医療機関が広く地元浸透し、管理者も地元出身ということで地域の方々とも馴染みが深い。秋祭り際には樽太鼓が園庭で披露されたり、逆に園でのコンサート等の行事に近隣の方々に参加されたりといった交流ももたれている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの命を尊いものとしてうけとめ、真心こめてもてなします。」「支えあい、生かし合う人間本来の姿に生きる事が出来るように支援します。」「日々の出会いと関わりを心から、喜び感謝します。」という独自の理念を掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示され、朝礼時には毎日唱和することで日々確認し、理念の実践に努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	系列医療機関が広く地元へ浸透し、管理者も地元出身ということで地域の方々とも馴染みが深い。秋祭り際には、樽太鼓が園庭で披露されたり、逆に園でのコンサート等の行事に近隣の方々に参加されたりといった交流ももたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価後、早速運営推進会議や避難訓練を実施するなど、評価を活かし改善に向けて前向きに取り組まれている。自己評価についても、その意義を理解し、管理者を中心に職員全体で取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議が開催されている。ホームの行事報告や避難訓練への協力を呼びかけたり、各方面からの意見も聴取され、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要があれば市の担当者と連絡はとっているが、定期的ではない。また、運営推進会議への市からの参加への呼びかけは、まだなされていない。	○	今後運営推進会議へも、市からの参加を積極的に呼びかけるとともに、サービスの質の向上のため普段からの関係を密にしていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が高く、口頭では随時報告がなされている。	○	口頭での報告では内容にばらつきが生じやすく、情報の均一化という意味でも、定期的なホーム便り等の文書での報告も行うことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に会話の中で、意見、要望、苦情等を積極的に聴取するように努められている。ホーム内の苦情窓口の他、外部の苦情申し立て機関の説明も行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけなじみの関係を崩さないよう配慮されている。やむを得ず異動があった場合は、入居者のダメージを最小限に抑えるよう努力され、家族へも訪問時に紹介説明がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は、その都度職員全体に呼びかけられている。都合がつけば、誰もがいずれかの研修に参加できるようになっている。研修後は全体でそれを共有できるよう、ホーム内での伝達がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入られ、勉強会や学習会へは参加されているが、ホーム同士の交流はまだ行われていない。	○	管理者レベル、介護者レベルでの近隣のグループホームとの交流の機会が設けられ、サービスの質の向上を目指し、ネットワークが形成されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学やお試しをすすめられている。やむを得ず直ちに利用となった場合も、入居後に馴染みの関係作りに努められ、声かけや見守り等を多くするなど、家族と協力しながら関係作りに努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくりとしたペースの中で、入居者の方が得意なことお好きなことをともに喜び、人生の先輩として尊敬し、学び支えあう関係作りに努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“思いは常に表現されている”ということを念頭に置き、入居者や家族との会話の中から、本人の思いや暮らしの希望の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からも聞き取り調査を行い、毎月カンファレンスが行われ、入居者がより良く暮らすために、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われている。毎月カンファレンスが開かれ、状態の変化があればその都度の見直しも、家族の意見も聴取しながら実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族ができない場合の通院介助、理美容院への外出支援。希望があれば、家族が入居者と昼食を一緒に楽しめるよう、昼食の提供もされており、必要に応じた柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が希望される馴染みのかかりつけ医のもと、継続して受診できるよう支援されている。隣接した協力医療機関より、定期的な往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師、職員とで十分に話し合い、希望されればターミナルケアにも対応している。その場合、ターミナルの指針を文書化し、家族への説明を行い同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう、排泄や入浴の際は特に配慮されている。管理者も日々職員に、プライバシーに配慮した言葉かけの大切さを話されている。また、記録等については事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	”ゆっくり、のんびり、本人のペースで”ということを大事にされ、一人ひとりの思いを尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを用意したり、テーブルを拭いたり、出来ることは職員と一緒に準備されている。食事も入居者と職員とが一緒に、ゆっくり楽しみながら摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が予定されているが、入居者の希望に沿って、曜日や時間にとらわれず、好きな時間に入浴できるようになっている。それぞれの体調やプライバシーに配慮した入浴支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	民謡を聴いたり、塗り絵、野菜作り、野球中継の視聴など、一人ひとりが思い思いに楽しみながら過ごせるよう配慮されている。新聞おり、おしぼりの用意、掃除、献立の記入など、出来る範囲での役割づくりもなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は戸外を散歩したり、園庭での野菜の水やりなどをされている。花見などの季節行事や買い物などの機会を設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も施錠されず、鍵をかけないケアに努められている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、運営推進会議を利用し地域へも呼びかけ、地域の協力を得ながら避難訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員を中心に、身体状況に応じてミキサー食からだんだんと固形食へと移行したり、一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく静かな雰囲気の中、季節の花々が飾られ、ソファを中心に入居者の方々が思い思いの場で、ゆっくりくつろげるようにされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にテレビや冷蔵庫、コタツなどの持ち込みもあり、使い慣れたものに囲まれ、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		